指定管理者制度による施設の管理運営状況総括調書
（総合結果）

施設名	三浦しらとり園		
指定管理者名	社会福祉法人　清和会		
施設所管課（事務所）	障害サービス課		
指定期間	R５．４．１（2023年）　～　R10．３．31（2028年）	評価期間	R５（2023）年度　～　R７（2025）年度

指定管理者制度による管理運営状況の総合評価

評価	評価基準
B	Ｓ：極めて良好 Ａ：良好 Ｂ：一部改善が必要 Ｃ：抜本的な改善が必要

評価理由及び今後の対応

　指定管理者制度による管理運営状況の総括を行ったところ、施設の管理運営が適切に行われていることを確認した。
　サービス向上に向けた取組の実施状況としては、お祭りの会場提供やイベントへの参加等により、地域と連携して取り組んでいる。また、指定管理者の自主事業は、施設の目的に合致しており、地域の障害児者支援の拠点施設としての役割を担っている。
　利用者満足度調査では、創意工夫を行いながら利用者の意見を引き出し、年々満足と回答した割合が上昇している上、回答結果を実際に支援に活かして取り組んでいる。
　以上のことから、引き続き指定管理者制度により、施設の管理運営を行うことが望ましい。

指定管理者制度による管理の有効性	有（○）	無

１　サービス向上に向けた取組の実施状況

確認項目	確認の視点	項目別評価	内容・評価理由
指定管理業務実施にあたっての考え方、運営の方針等	□指定管理業務の総合的な運営方針が守られているか □委託した業務は適切に実施されているか	A	□三浦しらとり園の運営、維持管理等の指定管理業務について、運営理念に基づき、確実に実施されている。 □随時の現地調査及び実績報告書により、業務の適切な実施を確認している。
施設の維持管理	□施設の維持管理（清掃業務、ごみ収集業務、保守点検業務、受付業務、警備業務等）は事業計画どおり実施されているか	A	□施設管理業務、給食調理業務、洗濯業務、診療所業務等について、業務委託している。随時の現地調査及び業務委託実績報告書により確認している。
地域と連携した魅力ある施設づくり	□地域人材の活用、地域との協力体制の構築、ボランティア団体等の育成・連携の取組を積極的に行っているか □地域企業等への業務委託を行っているか	A	□町内会のお祭り等を園内グラウンドで開催し、地域の販売会に参加するなど、地域イベントへの参加を継続している。また、ボランティア受入れも170人程度あり、支援いただいている。 □洗濯業務については、県内の社会福祉法人に委託している。

評価結果	評価区分
A	Ｓ：協定等に定める水準を上回る（項目別評価でＢ、Ｃがなく Ｓが半数以上※） Ａ：協定等に定める水準どおり　（項目別評価でＢ、Ｃがなく Ａが半数以上※） Ｂ：協定等に定める水準を下回る（項目別評価でＢが１つ以上） Ｃ：協定等に定める水準を大幅に下回る（項目別評価でＣが１つ以上）

２　施設の利用状況

	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	３か年平均
目標値 （定員） 設定方法：　イ	人	人	人	0　人
利用者数	人	人	人	0　人
対目標値（数） ※下段は率	人 %	人 %	人 %	対目標値（率） %

	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	３か年平均
目標値 （退所者数） 設定方法：　ア	4　人	4　人	4　人	4　人
退所者数	3　人	2　人	3　人	3　人
対目標値（数） ※下段は率	△　1　人 75　%	△　2　人 50　%	△　1　人 75　%	対目標値（率） 66.7　%

※目標値の設定方法　　ア…募集時の提案事項のため、指定期間当初から設定
イ…モニタリング調書作成等のため、便宜的に設定

評価結果	評価区分
C	利用者数と目標値を比較して（３か年平均） Ｓ：110%以上 Ａ：100%以上～110%未満 Ｂ：　85%以上～100%未満 Ｃ：　85%未満

確認の視点	施設の利用状況についての評価
「施設の利用状況」について □事業の広報・ＰＲは効果的に実施されているか □自主事業は施設の設置目的に合致し、利用促進につながっているか □利用促進に向けた取組は適切か	入所者の適切な受入れと併せて地域生活移行を推進し、退所の取組を評価の対象とするよう評価方法を変更したことから、入所の取組を対象外としている。 なお、提案時の退所者数の目標値に、「高齢施設への移行者」も含んでいることを鑑み、退所者数の実績値にも当該移行者を含めて記載した。（令和５年度・令和６年度のモニタリング結果報告書では、退所者実績値は「高齢施設への移行者」を含んでおらず、また障害児の実績を含んでいることから本様式の数値とは一致しない。） □広報誌が内外向けに２種類あり、施設としての取組を随時発信している。 □自主事業として平成26年４月１日に「三浦しらとり相談支援事業所」を開設した。令和７年度は89名の利用児者がおり、横須賀三浦地域の障害児者支援の拠点施設としての役割を担っている。 □児童について、空床が生じた際には、中央児童相談所、園内の入退所検討委員会などの関係機関に速やかに連絡し入所調整を行っている。 □民間移譲を見据えつつ、意思決定支援による地域生活移行や定員規模の縮小を進めることから成人の新規入所を見合わせている。成人の入所者の地域生活移行は当初計画どおりには進んでいないため、今後も引き続き県とともに地域生活移行の課題に対する取組を進めていく必要がある。

３　利用者満足度の状況

	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	３か年平均
利用者満足度調査において「満足」と答えた利用者の割合（サービス内容の総合的評価に係る設問） ※上段：割合、下段：回答者数	71.3 % 77 人	84.6 % 77 人	86.9 % 82.6 人	80.5　%

※複数回実施した場合や複数対象に向けて実施した場合等は、合計した数値を記載

評価結果	評価区分
A	「満足」（上位２段階の評価）と答えた割合が（３か年平均） Ｓ：　90%以上 Ａ：　70%以上～ 90%未満 Ｂ：　50%以上～ 70%未満 Ｃ：　50%未満　又はＳ～Ｂにかかわらず「不満足」と答えた割合が50%以上

確認の視点	利用者満足度の状況についての評価
□調査の実施方法（対象、時期、回数、配布方法等）は適切か □利用者満足度向上に向けた取組は適切か	□利用者満足度調査については、対面により実施している。設問は、意思決定支援の視点を取り入れながら、利用者自身の意思に基づいて決定することを重視している。令和７年度については、入所利用者に加え、通所部門利用者に対しても実施し「ごはんをおいしく食べていますか」等の共通質問３問と、各セクション毎にオリジナルの質問１問を追加し、計４問で実施した。年々満足と回答した割合が上昇している。 □利用者満足度調査の結果を受けて、余暇支援を計画・実行する事例もあり、満足度向上に向けた取組として評価できる。

４　苦情・要望等への対応

	年月	意見の内容	対応状況
施設の管理に関する利用者からの主な意見と対応状況	令和５年度	【要望：利用者の対応方法について】 連休の過ごし方に関して職員の提案に不満があった児童が「施設にいたくない」との意向を家族等に伝え、その職員対応に不信感を持ち施設長と話したいとの要望。	児童の障害特性を共有し、気持ちを確認しながら家族・児童相談所と協議を続けた。職員間の連携を保ち児童と丁寧に向き合い、信頼関係を構築した。

確認の視点	苦情・要望等への対応についての評価
□積極的に苦情・要望等の把握に取り組んでいるか □把握した内容を事業等へ適切に反映する仕組みを整備しているか □苦情・要望等への対応は適切か	□「声のポスト」を園内に設置し、利用者からの意見の把握に取り組んでいる。また、児童はコスモス会、成人は話そう会という利用児者の意見を表明する機会を通じて苦情・要望等の把握に取り組んでいる。 □利用者や家族の相談に適切に応じるため、オンブズパーソン制度を導入し、必要に応じて施設に対して改善にむけた提言等を行う体制を整えている。また、第三者委員により、利用者や家族からの相談、苦情の解決に向けての対応にあたる仕組みが整備されている。 □令和５年度から３年間で苦情は０件、要望は１件だった。要望については、真摯に受け止め、利用者本人と家族を中心に協議を重ねた結果、適切に対応が終了している。

５　事故・不祥事等への対応

事故・不祥事等の概要と対応状況	発生年月日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
	令和５年 ８月10日 他10件	①倒れている本人を職員が発見する。立たせようとするが立ち上がれないので、診療所に連絡する。 ②８月30日事故報告書により確認。 ③病院を受診し、レントゲン撮影の結果、骨折との診断。手術後、退院。機能的に歩行に問題ない。リハビリ継続。事故発生時、他の支援員は他利用者の支援中であり、現認できなかったため、利用者の状態を把握し、情報共有の上、支援に当たる。 ④なし ⑤現認できていないが、その後の他利用者の様子から他利用者に押された可能性が高いと思われる。また入院後、骨粗しょう症との診断が出て、服薬治療を開始した。費用負担なし。 ⑥なし
	令和６年 ８月31日 他１件	①短期利用の利用者が居室から見当たらなくなり、捜索を行い、警察にも連絡する。 ②神奈川県電子申請システムにて、第一報を9/2に報告。 ③家族より入電。警察が当該利用者を衣笠インター付近で発見、保護したとの連絡が入る。 (対策)利用者特性を再確認するとともに、職員間の連携を密にするよう努める。 ④なし ⑤(原因)定時（９時）のお茶の提供時に姿が見られたことや、持参したタブレットで動画を観ており、その音が外まで聞こえていたこと（大音量で観ている事が多いため、近くにいると勘違いをした）、短期利用の終了時間が近かったことから、見守りが疎かになってしまった。費用負担なし。 ⑥なし
	令和８年 １月27日	① 本人の入浴後、職員と寮に戻り居室に入るのを確認する。職員が入浴後の衣類の洗濯をしていると、寮玄関の開閉の音が聞こえる。本人の居室を確認すると不在。急いで後を追うが見当たらない。寮内および園内の捜索を開始する。館内放送にて各寮在勤職員に捜索要請を行う。見守りカメラにて17：24に本人が本館から走って出ていく様子、その後コンビニ方向に園を出ていく様子が確認される。 ②神奈川県電子申請システムにて、第一報を即日報告。 ③母へ当園から出て行ってしまったことを報告し本人が行きそうなところは家電量販店と以前本人が通っていた放課後デイサービスであると情報を得る。所在不明より30分が経過し警察へ連絡しているさなか、母から電話があり放課後デイサービスにて保護された情報が入る。警察にはその場で発見された旨を伝える。近くを捜索していた公用車で本人を放課後デイサービスへ迎えに行く。本人が職員とともに帰園する。 (対策)今回も幸いにして無断外出後、無事発見に至ったが入寮時から見守り強化をしていた中、連続２度目の無断外出となってしまった。今後の対応について、園内会議を実施し協議をした。夜間の防犯施錠時間帯以外はマンツーでの対応、日課の再考、園内の情報共有、居室にセンサーの設置をするなどの対応を行った。当該寮だけの問題でなく園全体の問題として取り組む。 ④なし

確認の視点	事故・不祥事等への対応についての評価
□事故・不祥事等防止に向けた仕組みが構築されているか □事故・不祥事等発生時の対応は適切か	□事故があった場合には、第一報→書面報告→再発防止策の策定という一連の流れができており、事故を風化させない取組となっている。 □リスクマネジメント委員会において、事故報告書の分析、集計を毎月行い、事故の未然防止に努めている。また、毎月の運営会議にて報告を行い、各セクションで共有し振り返りを行うことで、再発防止や重篤な事故の発生とならないように取り組んでいる。

６　収支状況

単位：千円

	【参考】Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
収入	1,300,860 (1,320,062)			1,207,399 (1,171,928)			1,178,800 (1,124,908)		
内訳	指定管理料	利用料金	その他	指定管理料	利用料金	その他	指定管理料	利用料金	その他
	604,500 (604,500)	668,681 (689,020)	27,679 (26,542)	532,000 (532,000)	638,102 (616,351)	37,297 (23,577)	499,000 (499,000)	644,095 (602,632)	35,705 (23,276)
支出	1,224,761 (1,289,090)			1,164,927 (1,147,535)			1,161,297 (1,078,415)		
収支差額	76,099 (30,972)			42,472 (24,393)			17,503 (46,493)		

	Ｒ７年度			累計		
収入	1,128,604 (1,140,959)			3,514,803 3,437,795		
内訳	指定管理料	利用料金	その他	指定管理料	利用料金	その他
	481,764 (471,500)	624,650 (644,576)	22,190 (24,883)	1,512,764 (1,502,500)	1,906,847 (1,863,559)	95,192 71,736
支出	1,143,590 (1,135,061)			3,469,814 (3,361,011)		
収支差額	△ 14,986 (5,898)			44,989 (76,784)		

収入合計／支出合計比
101.3%

※(　)内は収支計画額。令和７年度は速報値

評価結果	評価区分
A	収入合計／支出合計の比率が Ｓ(優良)：105%以上 Ａ(良好)：100%～105%未満 Ｂ(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 Ｃ(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満

確認の視点	収支状況についての評価
□収入増加に向けた取組の内容は適切か □経費節減に向けた取組の内容は適切か	□児童利用定員に空床が生じた際には、関係機関に情報提供し、速やかに空床を埋めるよう法人として努力している。 □障害福祉の報酬体系の理解を深め、算定できる加算は算定している。また、加算条件に研修修了要件があるものについては、積極的に研修するよう取り組んでいる。 □県直営時代と比較して、給食調理業務、洗濯業務等の委託化を積極的に進め、経費の節減を図っている。また、日々の徹底した節電、時間外勤務の削減、ボランティアによる施設環境の整備に取り組んでいる。

7　業務遂行能力

確認項目	確認の視点	項目別評価	内容・評価理由
人的な能力、執行体制	□管理運営にあたって適切な人員が配置されているか □人材育成や職員採用が適切に行われているか □労働時間短縮の取組や職場のハラスメント対策など労働環境の確保の取組が行われているか	A	□令和７年に寮の統合を実施し、職員配置を再編し、不足する人員については派遣職員を活用することで、福祉業界の人材不足の中でも充実した支援体制を工夫している。 □階層別研修による人材育成が継続されている。 □衛生委員会を毎月１回開催し、職場環境の改善に努めている。 また、園内での内部研修のほか、外部研修は階層別に人選し、職員の支援力向上という観点から人材育成を図っている。
コンプライアンス、社会貢献	□指定管理業務等の実施にあたって法令違反等の行為はないか □環境への配慮は適切か □障害者雇用等の状況は適切か	A	□労働基準監督署等による労働環境の確保に係る指摘事項は無かった。身体拘束等の適正化の更なる推進については、当園では毎月１回、身体拘束判定会議（適正化委員会）を開催し、定期的に日頃の支援を振り返るとともに、研修参加や自己点検を行っている。 □毎月環境整備を実施しており、植木剪定、芝刈り、除草作業等の環境美化に努めている。 □障害者雇用については、法定雇用率を達成しており、適切に対応している。
個人情報保護	□個人情報保護についての方針・体制及び教育・研修体制は適切か □個人情報の取扱いは適切か	A	□法人として「個人情報保護規程」を策定し、実務を執り行っている。また、新規採用研修において、個人情報保護の重要性についての講義を実施している。 □個人情報流出等の事故は発生していない。

評価結果	評価区分
A	Ｓ：協定等に定める水準を上回る（項目別評価でＢ、ＣがなくＳが半数以上※） Ａ：協定等に定める水準どおり　（項目別評価でＢ、ＣがなくＡが半数以上※） Ｂ：協定等に定める水準を下回る（項目別評価でＢが１つ以上） Ｃ：協定等に定める水準を大幅に下回る（項目別評価でＣが１つ以上）